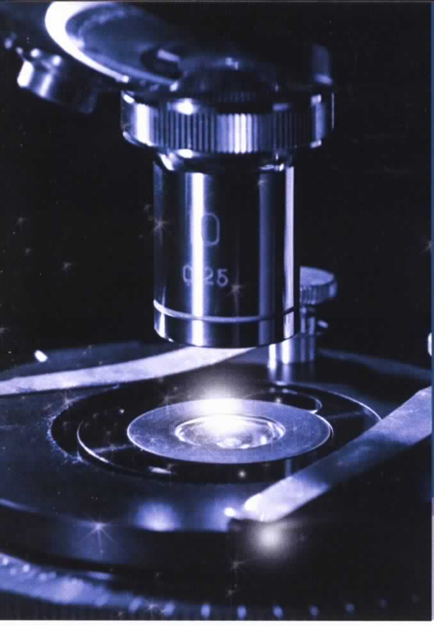

ISSN 1346-6801

九州大学総合研究博物館ニュース

March 2005 No.4

九州大学総合研究博物館の改組に向けて

九州大学総合研究博物館 館長 村江　達士

九州大学総合研究博物館では、平成12年4月の設置当初から、学内に散在する標本・資料の一元管理と研究成果の市民社会への還元を主任務として、膨大な数の各種標本・資料のデータベース化及び各種公開展示に取り組んで参りました。その成果は「九州大学総合研究博物館自己点検・評価報告書」に纏めて記載されておりますが、ごく最近の活動としては、昨年末から新年にかけて、福岡市立博物館において公開展示「倭人伝の道と北部九州の古代文化」を行い、また本年の夏には福岡市立少年科学文化会館において公開展示「九州大学の所蔵標本・資料」を行う予定で準備を進めています。これらの活動は市当局をはじめとした地域社会の理解と協力があって初めて成り立つものです。

当博物館では、平成14年11月に多くの学外からの関係者を加えた専門委員会「新しい大学博物館を考える会」を発足させ、九州大学総合研究博物館の将来計画を検討して頂き、平成15年4月に提言を得ました。その提言の中では、これからの大学博物館の果たすべき役割として、学外組織と連携した小中学生の学習支援や生涯学習の支援等の社会貢献が強く要請されました。また、九州大学でも、平成16年度からの法人化に際して、社会連携・地域貢献を中期目標の中に掲げました。さらに、文科省も平成15年度の博物館関連告示において、今後の公立博物館の果たすべき主な役割の一つに、地域社会と連携した小中学生の学習支援や生涯学習の支援を挙げています。このように、国立大学の法人化と相前後して、大学博物館に要求される機能が急速に拡大してきています。

当博物館におきましても、その設置目的の中に地域社会への貢献を掲げ、幾つかの活動を通じて実績を重ねてきたところであります。しかしながら、現在の当博物館の組織は、地域社会と連携して活動をより一層効果的に行うには、必ずしも適した状態には有りません。そこで、このたび当博物館の改組を検討することに致しました。この改組に当たっては、当博物館が従来から果たしてきた機能を引き継ぐ部署として、研究部を設けるとともに、地域社会と連携して、小中学生の学習支援や生涯学習の支援、その他市民社会への貢献事業を効果的に行うための部署として、事業部を新たに設けることを予定しています。

新設の事業部におきましては、国立大学の法人化の利点を生かし、学外の関連団体から広く人材の参加を仰ぎ、地域社会文化の発展に寄与するためのニーズを的確に把握し、それに対する対応策を検討し、その結果を実践的に検証してゆく予定です。この改組の目的を達成するには、学内外の関係者の幅広い密接な連携が必要不可欠となりますので、多くの方々にご理解とご協力をお願いする次第です。